日刊工業新聞（2015 年 5 月 25 日 月曜日）　「大学の本気！進む産学官連携」
徳島大学大学院 医科栄養学科 臨床食管理学分野　奥村仙示（オクムラ ヒサミ）講師
”食生活改善の在り方／低エネルギーでも満腹感、満足感”

大学の本気！ 進む産学官連携

動を行っている。グローバル化を目指す大学として、地域の企業のグローバル化とともに成長を目指し、産学官連携推進研究協力会を組織、地域の産業界に呼びかける。企業などと包括協定を結び、共同して新たな価値の創出にも力をいれる。世界トップ10の大学を目標に大きな一歩を踏み出している。

さらなる地域貢献を目指して2011年に「広島大学産学官連携推進研究協力会」を旗揚げした。会員は地域の大企業から中小企業、さらに広島の営業所などの拠点を持つ企業が対象。技術相談、共同研究助成金、未公開特許情報提供などのサービスを行っている。

広島大学は「10年後に世界ランク10位以内、100年後にも世界で輝く大学」（髙槻学長）を目指している。広島大学だけの力での実現はむずかしい。一手段としての産学連携も大きな力を発揮している。地域だけでなく、日本に、アジアに、世界に視野を広げた活動を強力に推し進めることにしている。

とっての手段として、力を一層入れている。

さらなる地域貢献を目指して2011年に「広島大学産学官連携推進研究協力会」を旗揚げした。会員は地域の大企業から中小企業、さらに広島の営業所などの拠点を持つ企業が対象。技術相談、共同研究助成金、未公開特許情報提供などのサービスを行っている。

「10年後に世界ランク10位以内、100年後にも世界で輝く大学」（髙槻学長）を目指している。広島大学だけの力での実現はむずかしい。一手段としての産学連携も大きな力を発揮している。地域だけでなく、日本に、アジアに、世界に視野を広げた活動を強力に推し進めることにしている。

食生活改善の在り方

現在、糖尿病や肥満などの生活習慣病は増加の一途をたどっている。これを予防治療するためには生活習慣の改善、特に食事に気をつけ、規則的に運動することが重要だ。食事が大切であることは誰もが知っているが、実際にエネルギーや栄養のバランスに注意して食べることは難しい。低エネルギー密度（ED）の食品を摂取することで、低エネルギーでも満腹感・満足感の高い食事の選択法「オンシエット（Donnaiet）」を推奨する徳島大学大学院医科栄養学科臨床食管理学分野の奥村仙示講師に食生活の改善や今後の展望を聞いてみた。

INTERVIEW

低エネルギーでも満腹感、満足感

徳島大学大学院医科栄養学科臨床食管理学分野　奥村 仙示（ひさみ）講師

―「オンシエット（Donnaiet）」とは。

「密度（Donnaiet）」という意味。低エネルギーでも満腹感・満足感が高い食事の観点で、エネルギー密度（ED）に注目した食事法だ。今年の4月に提唱を始めた。

―エネルギー密度（ED）とは何ですか。

「食品1グラムあたりのエネルギー（kcal）のことで単位（kcal／g）と表す。野菜や果物、スープなどは水分を多くふくんだ食品は低EDで、ナッツ類や洋菓子など脂質の多い食品は高ED。生活習慣病改善に体重の減量や維持を考える際、満腹感・満足感が高いと食べ方は大変だ。食事に野菜を多く使うことで低EDになり、低ED化は必須事項だ。

―研究のきっかけは。

「徳島県民は糖尿病の死亡率が高い。原因はいろいろ考えられるが体重管理も重要で、おなかがいっぱいになるのに低エネルギーで、食べていてつらくない食事とは何か。また、野菜の摂取量も徳島県民は全国平均より少ないため、野菜をたっぷり食べ満足感・満腹感を高める食事を考えた。食事はおいしく、楽しい方がいい。食事の情報は氾濫しているが、管理栄養士の研究者として根拠のある情報を提供したい。なぜし、野菜にはカリウムが多く含まれるためカリウム制限が必要な方は主治医の指示に従うことが必要だ」

―弁当屋さんやレストランから引き合いが増えています。

「低エネルギーでも満腹感・満足感の高い食事組成を決め、その栄養組成の範囲の中で各社の特徴を出そうとなく、調理法や食材の選択、量を工夫し、付加価値の高い食事を提供できるシステムを構築した。産学連携のひとつで、弁当屋さんと組んだオンシエット弁当（仮称）を販売する予定だ。出張者らの年中に出し、セミナーも実施にあわせて行う」

―今後の方針について聞かせて下さい。

「栄養学を専門とする研究者・管理栄養士として、食事選択の手助けのため正しい情報を提供し、わかりやすく伝えることが使命だと考えている。食事を科学的に評価し、何を、どのくらい、どのように食べればなぜ良いかなどの疑問に答えるため研究・普及に尽力したい」